

# 教団新報

定 価 1 部 144 円 ( 本 体 133 円 千 共 206 円 )  
予 約 購 読 料 1 年 分 千 共 5,150 円  
紙 代 の み 3,600 円  
振 替 00140-9-145275  
本紙を購読ご希望の方は、前金を  
そえて、お近くのキリスト教書店  
へお申し込み下さい。  
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日 本 基 督 教 団  
169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18  
日本キリスト教会館内 電話 03(3202)0546  
FAX 03(3207)3918  
URL http://uccj.org  
発行人 長 崎 哲 夫  
編集主筆 渡 邊 義 彦  
印刷所 株式会社きかんし

## 教区総会報告

沖縄

西東京

中部

東北

東京

2016 年度

3

教団総会議員、大方を選出



准允により新しく教師を立てる

西東京教区 5月29日、30日にかけて、国分寺教会を会場に、第34回西東京教区定期総会が開催された。開会時

### 「立川開拓伝道」継続支援を決議

准允式が執り行われ、新しく教師が立てられた喜びを議長一同で分かち合い、議長報告から議事が開始された。

議長報告において真壁厳議長は「教区の教勢と教師の動き」立川開拓伝道のさらなる歩み「教区青年活動充実のための支援」「他教区との交流」「東日本大震災被災教区への継続的支援」「教区主催の集会」「教区に委ねられた喜びの決議」「教団関係」の8項目について順次報告した。

この報告に対し議場から、特に立川開拓伝道に

准允式が執り行われ、新しく教師が立てられた喜びを議長一同で分かち合い、議長報告から議事が開始された。



西東京

入への継続支援に関する件」に関しては、議長報告で疑義が示されたこともあり、より丁寧に議論がなされた。この議案は、2020年度までの5年間、立川からしだね伝道所に対して年間342万円を継続的に支出し支援を続けることを目的とした議案である。2007年に立川開拓伝道が教区

【信徒】井田昌之(狛江)、中島曉彦(八王子)、宮下

沖縄教区 第76回沖縄教区総会は、5月29・30両日、沖縄キリスト教センターで開会時、正議員45名中32名が出席して開会された。沖縄教区は03年以来連続して、教団問安使を拒否したが、石橋秀雄教団総会議長が総会を傍聴した。議事日程承認前に時間を要するのは、近年の沖縄教区総会の特徴で、今総会も議員資格の論議から、組織会終了までに45分間要した。

議長選挙は、第1回投票で当選者が出ず、上位2人による3回目投票で、31人中22票を獲得した平良修議員(うぶさと伝道所代務)が当選。これまで合同のとなえ直しを理論的に指導して来た平良修議員の再登場となった。平良修新議長は、「85歳になり体力的に鈍って来ている。沖縄教区は大きな選択を迫られており、投票してくれた人には責任があり、連帯責任でやって行きたい。教区総会に出席しない教

出しなかった。九州教区が呼びかけている熊本救援募金に、教区から100万円献金をする議案が、満場一致で可決され、総会傍聴の梅崎浩二九州教区議長が謝意を表した。



議長 平良修 氏



賛成多数で教団総会議員を選出しなかった

### 新議長に平良修氏

三役一新

沖縄

西東京



「嘘そのものには命はない。だから、言った人間からそれをもら

が、現代においてなお問われていると思う。



# 「未受洗者陪餐発言」教区対応を報告

## 中部教区

5月24日、25日にかけて、名古屋中央教会を会場に、第66回中部教区定期総会が開催された。開会時の議員数は、209名中177名であった。

開会礼拝が捧げられ、礼拝の中では聖餐式が執行され、諸報告から本格的に議事が開始された。常置委員会報告において「聖餐を巡る島しづ子教師の発言とその対応に関する件」についてが特に詳細に報告され、常置委員会が、名古屋堀川伝道所ならびに、島しづ子教師と丁寧に対話を重ねてきたことが議場に明らかにされた。

「評価と展望」の項は議長報告の意味合いが強い項であり、横山良樹議長が読み上げた。内容は「全般について」「伝道、研修について」「教区財政について」「東日本大震災について」「在日大韓基督教会との宣教協約について」

「評価と展望」の項は議長報告の意味合いが強い項であり、横山良樹議長が読み上げた。内容は「全般について」「伝道、研修について」「教区財政について」「東日本大震災について」「在日大韓基督教会との宣教協約について」



質疑に応じる佐々木問安使

「教区総会での未受洗者陪餐の発言について」「教区内センター活動について」「伝道資金について」等であったが、ここでも「教区総会での未受洗者陪餐の発言について」が詳細に報告され、現在、島しづ子教師が名古屋堀川伝道所で執り行っている聖餐式が、教区との対話の中で、日本基督教団式文に則った形に変更され、「洗礼を受けている、いないに関わらず、イエスを主と告白する方はどなたでもどうぞ」という呼びかけは行わない形に整えられたこと、そのことは役員会の議決であったことが報告された。

2日目は、逝去教師追悼礼拝、隠退教師感謝会に始まり、2名の按手礼式、1名の准礼式が執り行われ、喜びを議場が共有したところから議事が再開された。

# 19年3月まで震災救援活動を継続

## 東北教区

第71回東北教区総会は、5月24日、25日、仙台青葉荘教会で開催された。正議員152名中115名出席。

本総会では、震災関連及び04年から取り組んできた宣教共働のあり方に

計画は何も決まっていな

教団総会議員選挙方法について、倍數候補を選出した後、候補者の人と



中部

なりを良く知るために所信表明を行ってから本選挙を行うという修正議案が出されたが、少數否決となり、所信表明は行わず通常通りの方法で選挙

【信徒】本弘禮子(津)、辻康(四日市)、平尾貴美子(幸町)、野村敏彦(名古屋桜山)、加藤幹夫(阿漕)、横山良樹(半田)、小林光(熱田)、井ノ川勝(金沢)、高橋潤(中京)、渡部和使(山田)、勇文人(若草)、佐藤誠司(福井神明)、松島保真(小松)、小堀康彦(富山鹿島町)

【信徒】本弘禮子(津)、辻康(四日市)、平尾貴美子(幸町)、野村敏彦(名古屋桜山)、牧野愛子(名古屋)、春日敏美(金沢長町)、大木博(尾陽)、谷幸二(富山鹿島町)、竹内喜保(半田)、中田邦雄(松坂)、勝山志づえ(金沢元町)



東北

能問題支援対策室・いずみの働きに関して、規模を縮小しながらも、19年3月まで継続することを可決。議場からは、甲狀腺検査等のいずみの活動継続に関して、宣教協約を結ぶ対外諸教会にも呼び掛けてほしいこと、工

マオ石巻の働きはゼロに近い傾向があり、石巻独自の状況があることを指摘された。17年度以降、支援規模の縮小に向かっていること、エマオ・いずみの働きを続けるための募金を諸教会に願うことも報告された。

また、04年に宣教共働

# 「信徒必携」改訂準備を開始

## 東京教区

第75回東京教区総会が5月31日、富士見町教会を会場に開催された。木下宣世教師の説教「教会の外に出て語る」による開会礼拝を捧げ、逝去教師を憶えて祈りを捧げた。

組織会にて議員488名のうち294名出席、総会が成立した。

来賓として李明忠在日大韓基督教会関東地方会書記が挨拶、互いの信頼関係を構築・継続してい

く上で対話の重要性を語った。教団問安使として雲然俊美教団総会書記、三局より道家紀一総務幹事、竹澤知代志出版局長、数田安晴年金局理事長が出席した。

岸俊彦議長による議長報告・常置委員会報告及び三役報告を審議承認した後、常置委員半数改選選挙を行った。教団問安使および教団三局からの挨拶と質疑応答を経て、教団総会議員選挙第一選

挙(教職、信徒各17名)を行った。

報告・常置委員会報告及び三役報告を審議承認した後、常置委員半数改選選挙を行った。教団問安使および教団三局からの挨拶と質疑応答を経て、教団総会議員選挙第一選

結果を承認後、各支区推薦者を参考にして第二選挙(教職、信徒各10名)



東京

を行った。第二選挙結果承認後、1日目をもって閉会するとの議事運営委員会提案を承認、2日間の日程を繰り上げて閉会した。

常置委員選挙結果(半数改選)

【教職】神保望(下落合)、古旗誠(目白)、岸憲秀(千葉本町)、松井睦(聖徒、藤盛勇紀(富士見町))

良男(富士見町)、高花富夫(柏)

【教職】木下宣世(西千代)、中村公一(高輪)、岸俊彦(経堂北)、長山信夫(銀座)、渡邊義彦(柿ノ木坂)、伊藤英志(三軒茶屋、藤盛勇紀(富士見町)、古旗誠(目白)、大友英樹(赤羽)、高橋和人(田園調布)、岸憲秀(千葉本町)、小橋孝一(新島、阿部祐治(自由が丘、林牧人(西新井、

澤田竹二郎(白金、遠矢

を軸として行われた機構改革、地区再編、財政改革の振り返りと見直しのため、前総会期に常置委員会は「宣教共同のあり方検討委員会」を設置。本総会において、04年から15年度の宣教共働の執行状況をまとめた資料を配布した。同委員会の調査結果に基づき、宣教共働の理念を明確にしつつ、実情に即すように宣教共働委員会規程」が改定された。また、宣教共働連帯金関連の議案がいずれも可決。今回の制度改定により、宣教共働連帯金基準は定期昇給型から固定額となり、教師家族の生活を視野に入れた手当が手厚くされた。1日目夜には、宣教共働に関する協議会が開催され、これまでの経緯と実際の様子が分かち合わ

松井睦(聖徒、今泉幹夫(小金、石井錦一(松戸、井上馨(小岩、上田光正(曳舟、清弘剛生(須弥、生原美典(松原、大塚啓子(目黒原町、遠藤忠(むさし小山、西之園路子(滝野川、山ノ下恭二(牛込弘方町)、村上恵理也(松戸、小林信人(船橋)

【信徒】鈴木功男(目白)、持田二郎(池袋西)、黒沢咲子(下谷)、井川重夫(豊南坂、奥山盾夫(千葉本町)、永井清陽(経堂北、物井恵一(小松川)、朝岡瑞子(船橋)、神田道彦(洗足)、遠矢良男(富士見町)、川添裕一(自由



仙台青葉荘教会を会場に



300 名超の議員による会議

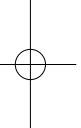
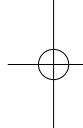
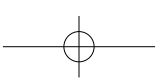
【信徒】保科隆(福島)、長尾厚志(仙台ホサナ)、小西望(仙台北)、高橋真人(会津坂下)、原裕(天

が丘、角谷多美子(安藤郎(麻布南部坂、佐藤佐枝子(高輪、若林之矩(柿ノ木坂、石川日出男(滝野川)、鎌田あつ子(目白)、伏見陽子(新津田沼、石井信満(長生)

童、潮義男(仙台青葉荘、布田秀治(いずみ愛泉、竹迫之(白河)、半澤洋一(仙台長町)

【信徒】遠藤道雄(福島伊達)、松本芳哉(仙台青葉荘)、石原裕子(常磐、成田得四郎(仙台東六番丁、三輪大(仙台青葉荘、長谷川美子(陸前古川、境澤栄美子(山形六日町)、丹治洋子(信天、横井泰明(須賀川)





▼宣教研究所委員会▲

「新・陪餐問題資料ガイド」執筆を開始

第5回委員会が、5月9日、教団会議室にて、委員7名の出席によって開催された。

松井陸委員長による聖書朗読、祈祷の後、委員

長より、常議員会からの委嘱を受け、常議員会に寄せられた「改訂宣教基礎理論第二次草案」に関する諸意見の集約作業の結果について、2月常議

員会に提出した旨、報告を受けた。

宣教研究所編『陪餐問題に関する資料ガイド』（1991年）について、2月常議の諸意見の整頓に関する

研究プロジェクトについては、富山鹿島町教会を会場に合宿形式での研究会が行われ、『新・陪餐問題に関する資料ガイド』（仮称）として目次案

を取り纏め、執筆箇所の担当決めを行い、8月末を目処に具体的な作業に入った旨、報告された。

『互いに支え合うために―各教区謝儀保障・教区互助制度資料集―2001年』の改訂については、なお未提出の教区がある旨確認し、資料の性格も鑑みて、具体的な編

集作業に入るまで提出を待つこととしたが、それでもなお提出のない場合は、揃った資料のみでの編集もやむを得ないこととした。

『青年伝道を考える―研究プロジェクト―』については、研究会の報告を受け、家庭伝道、幼児洗礼、教会学校、学校伝

道」といった主題が挙げられ、教説論、伝道論等、多岐にわたる課題を主体的に俯瞰し、肝となるべき事柄をつかんで閉塞状況の打破を目指すことを確認した。また、具体的な研究方法として、ある地域での教職・信徒有志による青年修養会（2017年開催予定）が計画

されており、その準備段階から研究対象とするなどの可能性が示された。これらの見通しを踏まえ、研究員の充実を図るため、学校伝道、青年伝道に従事する立場から具体的な候補を挙げて委嘱することとした。

（林 牧人報）

▼救援対策本部会議▲

最終、被災教会支援を決定

5月27日、救援対策本部第13回（通算第47回）会議を、教団会議室にて開催した。

た。

被災教会報告として奥羽教区からは、江刺教会が礼拝堂建築を教会総会で可決し、教区を通して支援申請を出していること、教団教師委員会による問安を受けたこと等が報告された。東北教区か

らは被災教会の借入金返済のための全国募金の状況、エマオ仙台・石巻および「いずみ」の活動状況等が報告された。関東教区からは、各教区総会において震災に対する支援への感謝を述べたことが報告された。

また、東日本大震災教団救援対策事業全記録刊行委員会からは、全体の目次立て等を検討したことが報告された。

審議事項においては、被災教会に対する支援の最後となる江刺教会礼拝堂建築支援（支援・貸付

の案件を扱った。

（雲然俊美報）

▼世界宣教委員会▲

協約未締結教派への宣教師派遣について議論

第5回世界宣教委員会が、5月17日教団会議室で行われた。毎回、在外教師の活動が報告されるが、今回も加藤誠幹事より報告された。

その中で、アメリカ合衆国の日本語教会に派遣されている在外教師から、遣わされている教会が所属する教派と日本基督教団との宣教協約が結ばれていないので、身分保証に支障を来すことがある。できれば早くに宣

教協約を結ぶことが両教団にとって望ましいことだと思ふ」という報告があった。この問題は、教団が派遣している在外教師に共通の課題であろうというところで、協議事項として扱った。宣教協約を結ぶ場合、信仰職制の問題に踏み込まなければならず、両教団の持つ信仰職制の制度的違いや神学的判断の違いをどこまで認め合えるか、などの問題が出て来るので、こ

の点は慎重に考えるべきであり、当委員会が扱える範囲を超えている部分がある。しかし、まず当委員会がこの問題を受けとめて、扱わなければならない問題であることを認識した。

いずれ教団として取り組んでもらうために当委員会が準備を整える作業をするなどを、次期委員会に引き継ぐことになった。

（吉岡光人報）

事務局報

教師異動

上田新参町

飯田吾妻町

就主 川上麻里

就主 川上憲雄

就主 川上寧

就主 川上真咲

就主 守屋彰夫

就主 守屋彰夫

就主 守屋彰夫

就主 守屋彰夫

就主 守屋彰夫

就主 守屋彰夫

就主 守屋彰夫

就主 守屋彰夫

就主 守屋彰夫

就主 守屋彰夫

就主 守屋彰夫

就主 守屋彰夫

就主 守屋彰夫

就主 守屋彰夫

就主 守屋彰夫

就主 守屋彰夫

就主 守屋彰夫

就主 守屋彰夫

就主 守屋彰夫

就主 守屋彰夫

就主 守屋彰夫

就主 守屋彰夫

就主 守屋彰夫

就主 守屋彰夫

就主 守屋彰夫

就主 守屋彰夫

信州 辞主 鷹澤 匠

大和キリスト 辞主 市川忠彦

辞主 市川忠彦

辞主 鷹澤 匠

辞主 市川和恵

辞主 鷹澤 匠

辞主 市川忠彦

辞主 鷹澤 匠

辞主 市川和恵

辞主 鷹澤 匠

辞主 市川忠彦

辞主 鷹澤 匠

辞主 市川和恵

辞主 鷹澤 匠

辞主 市川忠彦

辞主 鷹澤 匠

辞主 市川和恵

辞主 鷹澤 匠

辞主 市川忠彦

辞主 鷹澤 匠

辞主 市川和恵

辞主 鷹澤 匠

辞主 市川忠彦

辞主 鷹澤 匠

辞主 市川和恵

辞主 鷹澤 匠

辞主 市川忠彦

辞主 鷹澤 匠

辞主 市川和恵

辞主 鷹澤 匠

辞主 市川忠彦

辞主 鷹澤 匠

辞主 市川和恵

辞主 鷹澤 匠

就主 杉岡ひとみ

函館千歳就主 藤崎裕之

世光 辞主 榎本栄次

中渋谷 辞主 及川 信

就主 大住雄一

就主 及川 信

就主 大住雄一

就主 及川 信

就主 大住雄一

就主 及川 信

就主 大住雄一

就主 及川 信

就主 大住雄一

就主 及川 信

就主 大住雄一

就主 及川 信

就主 大住雄一

就主 及川 信

就主 大住雄一

就主 及川 信

就主 大住雄一

就主 及川 信

就主 大住雄一

就主 及川 信

就主 大住雄一

就主 及川 信

就主 大住雄一

就主 及川 信

就主 大住雄一

就主 及川 信

就主 大住雄一

就主 及川 信

就主 大住雄一

就主 及川 信

就主 関口 康

厚別 辞主 持田行人

就主 大庭康男

田浦 辞主 吉住高志

就主 持田行人

就主 岩橋常久

就主 外谷悦夫

就主 小泉麻子

就主 安田治夫

就主 小泉麻子

就主 安田治夫

就主 小泉麻子

就主 安田治夫

就主 小泉麻子

就主 安田治夫

就主 小泉麻子

就主 安田治夫

就主 小泉麻子

就主 安田治夫

就主 小泉麻子

就主 安田治夫

就主 小泉麻子

就主 安田治夫

就主 小泉麻子

就主 安田治夫

就主 小泉麻子

就主 安田治夫

就主 小泉麻子

就主 安田治夫

就主 小泉麻子

就主 安田治夫

就主 小泉麻子

就主 安田治夫

就主 小泉麻子

就主 長倉 基

就主 兼担 澤田 隆

就主 兼担 鈴木みどり

就主 兼担 鈴木みどり

就主 兼担 鈴木みどり

就主 兼担 鈴木みどり

就主 兼担 鈴木みどり

就主 兼担 鈴木みどり

就主 兼担 鈴木みどり

就主 兼担 鈴木みどり

就主 兼担 鈴木みどり

就主 兼担 鈴木みどり

就主 兼担 鈴木みどり

就主 兼担 鈴木みどり

就主 兼担 鈴木みどり

就主 兼担 鈴木みどり

就主 兼担 鈴木みどり

就主 兼担 鈴木みどり

就主 兼担 鈴木みどり

就主 兼担 鈴木みどり

就主 兼担 鈴木みどり

就主 兼担 鈴木みどり

就主 兼担 鈴木みどり

就主 兼担 鈴木みどり

就主 兼担 鈴木みどり

就主 兼担 鈴木みどり

就主 兼担 鈴木みどり

就主 兼担 鈴木みどり

就主 兼担 鈴木みどり

就主 兼担 鈴木みどり

就主 兼担 鈴木みどり

就主 兼担 鈴木みどり

就主 兼担 鈴木みどり

就主 兼担 鈴木みどり



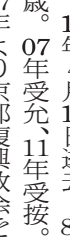
市原 順氏（京都復興教会担任教師）



河村寛子氏（無任所教師）



横山秀紀氏（福光教会主任担任教師）



黒田愛子氏（隠退教師）



山口県生氏（87年同志社大学大学院卒業。04年から09年まで西が丘教会を牧会。遺族は、妻



小松川氏（99年隠退。同年より山形南部、小見川教会を経て





上、新会堂・新園舎の外観  
下、新会堂で最初の礼拝

2011年3月11日、東日本大震災があり、宮古教会は約2メートルの浸水被害がありました。1週間後には、盛岡YMCAの方々が支援に来てくださり、教会の復旧をしつつ、地域への支援活動が開始されました。それは、今日も「盛岡YMCA宮古ボランティアセンター」として活動を続けています。

また教会が生み出した「ひかり幼稚園」では、園舎の修繕、園バスが水没したので新しく手配すること、あるいは被災した園児の就園支援等を行っていきました。さらに教会は、改めて教会の歴史を学び直し、そのような中で、教会・牧師館の移転建築、また教会から2キロ離れている幼稚園も、教会と共にある施設として同一敷地内に、認定こども園として移転建築するという幻が与えられました。しかし、教会は現任陪餐会員10人の小さな教会であり、また幼稚園も園児50人前後の小さな幼稚園です。震災後、地代は高騰し、また更に建築費も高騰し、建築費は教会は当初予算の2倍、こども園は1.5倍になりました。土地取得から建築費まで約10億円の規模となりました。

教会と幼稚園は途方に暮れ、「もう自分たちの力ではこの事業は成し遂げられない」と何度も諦めそうになりました。それでも、その度ごとに、神様は必要な助けを与えてくださいました。教区・教団をはじめ、その他、本当に多くの方々の祈りと

お支えとを与えてくださり、大きな励ましを得ながら歩み出すことが出来ました。祈られているということがどれほど大きな支えになるかを改めて教えていただきました。そして、2014年11月15日には、教会・牧師館、認定こども園宮古ひかりの起工式が行われました。

2015年に教会・認定こども園の園舎も完成し、教会は10月から新会堂で礼拝を守る様になりました。翌11月には、「認定こども園宮古ひかり」が開園いたしました。そして何十年の間、礼拝をし、保育が営まれてきた旧会堂・旧園舎の解体がなされました。

そして、神様の大いなる導きの中で、2016年3月11日に献堂式を行うことが出来ました。全国より150名を超える方々に出席頂き、小さな会堂に讚美の声が響き渡りました。

しかし、建築などの一つ一つの経過を経るごとに、教会に集う方々から大病が見つかったり、あるいは健康を損なったり等、震災とそれ以降の日々が、いかに痛みと悩み、緊張の連続であるかを物語っています。そのような中にありますが、それでもなお、神様は私たち小さな群れの叫びを聞き、嘆きに御心を留めてくださると信じ、またこれからの歩きをも守り導いてくださると信じています。

厳しい日々が続いています。それでもなお、主イエスと共に、こども園の子どもたちや教職員と共に、この宮古の地に信仰の灯火を灯し続けたいと祈り続けています。

これからも私たちの宮古教会の歩みを祈りに憶えてくださると幸甚に存じます。

## 在日大韓基督教会と 日本基督教団との 宣教協力委員会

6月6〜7日、熱海市・ニューウェルシティ湯河原にて、第49回在日大韓

基督教会と日本基督教団との宣教協力委員会が、

「両教会の宣教課題と宣教協力」両教会の教職人事と交流」のテーマのもとに開催された。

在日大韓基督教会からは、金性済総会長、金必順副総会長、尹聖哲副総会長、趙永哲書記、金健副書記、鄭然元宣教委員長、金柄鎬総幹事が出席した。

日本基督教団からは、石橋秀雄議長、佐々木美知夫副議長、雲然俊美書記、長崎哲夫総幹事、小橋孝一在日韓国朝鮮人連

帯特設委員長、米倉美佐男宣教委員長、佐藤飛文歴史共同研究委員、山田貞夫歴史共同研究委員、

加藤誠世界宣教幹事、大三島義孝宣教幹事、高田輝樹職員、井合綾子職員が出席した。

1日目は金性済総会長の説教「沖に漕ぎ出し網を降しなさい」(ルカ5章11節)による開会礼

拝の後、前回記録確認、両教会の紹介および課題の報告がなされた。

その後、夕食をはさんで、金柄鎬総幹事と加藤誠世界宣教幹事が、両教団における韓国からの宣教師の受け入れ等に関する諸課題について発題した。

金総幹事は、在日大韓基督教会(教会数99)の牧師92名中44名が韓国からの宣教師であることを報告したほか、日本基督教団との牧師人事交流に関する課題を述べた。

加藤世界宣教幹事は、日本基督教団における他教団からの宣教師受け入れおよび教師転入手続きの説明と、それに伴う課題について述べた。

2日目は、発題を受けたの質疑と意見交換が活発になされ、両教団が今後具体的に取組むべき事項について協議した。

その後、「平和メッセージ」の内容を協議したほか、2010年以来18回開催している歴史共同研究委員会を今後も継続することを確認した。

最後に佐々木副議長の説教「神が行われたこと」(使徒14章21〜28節)による閉会礼拝をもって終了した。

(雲然俊美報)

お詫び・訂正

4842号1面、関東

教区総会報告中、問安使氏名を「雲然俊美教団総会書記」にお詫びして訂正します。



小林 直樹さん

## 福音を分かち合う ために



1976年奈良県生まれ。奈良高畑教会員。長老。

と気が付くと、牧師にこう話していた。「先生、僕、これから教会に来ていいですか」。やがて、洗礼を受けた。

大学卒業後、学校教師への憧れを抱き、ある進学校の高校に就職した。そこで、教師として多くの良き経験を与えられたが、やがて学校の教育方針に疑問を抱く。ちょうどその頃、大阪YMCA国際専門学校との出会いがあり、キリスト教主義学校での就職の道が開かれた。現在、多くの子どもたち、全国のYMCAのスタッフたちとの良い出会いと交流を与えられている。

キリスト教主義の職場と言

ある。新会堂はまさに礼拝の場である。それならば教会全体が礼拝の場であることを祈り続けるのが幸いと判断であった。毎主日の週報に祈りの課題が示る時を設けたのである。

## 積み重ねられる 祈り

この事が幹事会で提案されたのは、新会堂建築に関連してであった。新会堂建築実現に向けて私たちの信仰が強められ整えられることが大切であり、会堂だけでなく教会が主によって建てられるようにとの願いからで

ある。新会堂はまさに礼拝の場の中している。神に心を向け、存在を向けた姿がそこにある。先日は子どもたちとの合同礼拝であったが、子どもたちもまた静かに祈っていた。大人たちのよき証がそこに立てられていたからであろう。共に祈る幸い、共に祈る喜びが礼拝の中に具体的に現れ、主に従う群れが形成されて行く時、祈る事柄に神の御業を見る信仰も一層強められていくことであろう。信仰は見えない事実を確認するのだから。(教団総会副議長佐々木美知夫)